

# 県外派遣 参加報告書

報告者 藤田 学

- 1 大会名 第56回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会
- 2 大会期間 2026年2月13日～2月15日
- 3 会場 熊本県立第二高校

## ○2月14日(土) 男子Bパート1回戦

熊本県立第二高校

東福岡(福岡) - 創成館(長崎)

CC: 豆塚(熊本) U1: 藤田 U2: 力(熊本)

### PGC

- ・メカニクスの確認
- ・留学生プレイヤーの対応
- ・プライマリーの確認

### ゲーム後

自分が課題にしている、ポジションアジャスト・POCをテーマにゲームに入りました。ゲームの入り方としては前のゲーム中に救急車で運ばれたプレイヤーがいたので、テンポセットを意識した中でタフなゲームにしたいとクルーで共有しており、CCの豆塚氏がテンポセットしてくださり、ゲーム自体はスムーズに進行していく中で創成館の留学生プレイヤーへのコンタクトを自分が見逃したのをクルーに助けをもらう場面があり、映像で確認したときにポジショニングの位置を見直す必要を感じました。両チームともレベルが高くスピーディーな展開でゲームも最後まで拮抗しており、創成館の勝利で決着しました。課題の一つとして、ニューリードへの入り方が今後の課題と感じました。

## ○2月14日(土) 男子Bパート2回戦

熊本県立第二高校

慶誠(熊本) - 唐津工業(佐賀)

CC: 藤田 U1: 久保田(宮崎) : 久保(熊本)

### PGC

- ・メカニクスの確認

- ・絶対に落としてはいけないものについて。
- ・留学生プレイヤーへの対応

### ゲーム後

今回、県外派遣で初めての3P0のCCを経験させて頂きました。ゲーム前から慶誠のHCから留学生プレイヤーへのコンタクトのアピールがあり、クルーには情報として頭に入れておきながら明らかな物に関しては必ず笛にしましょうと、ただ敏感にならず見極めもしていきましょうと共有認識してゲームに入りました。

前の試合に続き留学生プレイヤーがいる中でトスアップを緊張してしまい、トスアップ後にメカニクスを崩してしまったのをクルーに助けられました。自分の経験と力のなさを感じたゲームの入りになりました。

ゲーム序盤は、協力してゲームを進行できていましたがプレイヤーが変わった時の留学生プレイヤーへのコンタクトを笛にできずストレスためてしまい、3QにU1がテクニカルをいれるケースができてしまいました。プレイヤーが交代したときにもう一度テンポセットすることと、交代したプレイヤーの特徴を早く察知する必要性を感じました。

唐津工業の選手が慶誠の留学生プレイヤーへのファールが多いゲームになってしまい、選手も納得いかないケースもあり、ファールの整理と笛でのメッセージ性が足りなかったと反省しました。

課題はありましたが勝ち上がりのゲームで最後まで拮抗した中で、クルーと協力してゲーム終わらせたことは貴重な経験になりました。

### ○全体を通して

全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会を経験させていただきました。これまでとはまた違った雰囲気の中、緊張しながらも自分の課題や目標にチャレンジすることができたと感じています。また、九州各地の審判員の皆様とコート内外で交流をさせていただき、自分の目指す審判の方向性が見つけられたのが大きな収穫でした。

学んだことを、県内に還元していくとともに、今後の県内での審判活動に活かして参りたいと思います。

出場した選手・コーチ・保護者ならびに準備・運営して下さった熊本県バスケット協会の皆様にお礼を申し上げるとともに、今回派遣をして下さった鹿児島県バスケットボール協会の皆様、原田審判委員長、各カテゴリー長、県審判委員会、職場、家族、関わって下さった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。